



「家庭でスマホ・ゲーム等のルール作りを」

桂川中学校 校長 石田 英喜

今年度実施されました本校3年生の全国学力・学習状況調査の結果は、全国平均を下回る結果となりました。しかしながら昨年度の福岡県学力調査に比べると今回は、10ポイント近く向上するなどの良い傾向も見取れます。そのような本校の生徒の特長として、3年生への質問紙調査で明らかになった課題についてお知らせいたします。

《課題は左記の3点です》

- ・朝ご飯を食べないまま登校している生徒が2割近くいる
- ・スマートフォンを持っているが「家庭での約束がない」と回答32.6%
(県平均21.9%)
- ・一日あたりのスマートフォンを使用している時間が1時間以上と回答約90%
(県平均約82%)

以上のような実態が明らかになりました。本校の生徒たちが、家や学校外の生活において、ゲーム等に費やす時間がいかに長いかがこの調査からわかってきました。

特に1日にゲーム等を3時間以上すると答えた生徒が39%もいたことは驚きでした。ゲームの時間が、家庭での親子の会話時間や学習時間を奪ってしまっているのではないかと心配です。学力の定着には、「学習したことを何度も思い出す作業」が欠かせません。毎日の学習内容を桂川ノートに反復して学習する、明日習うところの教科書を読んでおくなどの繰り返し学習が大切になってきます。生徒たちの未来のためにも是非ともご家庭や地域におかれまして、スマートフォン等の使用時間に関するルールを決められ適切な使用を心がけていただきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

令和3年度「全国学力・学習状況調査」における桂川町の児童・生徒の状況(その2)

桂川町教育委員会 学校教育課

10月号に引き続き本年度の「全国学力・学習状況調査」から見える桂川町の児童・生徒の状況を報告します。

調査では学力の状況だけでなく、学習の状況や生活実態も見えてきます。

調査対象は、小学校6年生と中学校3年生です。

まず、学校生活で、桂川町が全国や県と比べて、小中学校ともにポイントの高い項目としては、

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている
○友達と協力するのは、楽しいと思っている
○自分で決めたことは、やり遂げるようにしている

逆に、ポイントが低い項目としては、

- 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことが苦手である
- 自分と違う意見について考えるのは、楽しいとは感じていない

が挙げられます。

子ども達は、全体的には落ち着いた学校生活を送り、友達との関係も良好で、自律的に判断し、責任のある行動がとれているようです。一方で、自分の考えや意見を伝えること、互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解することが苦手なようです。

次に、家庭生活では、次の項目が小中学校ともに課題となっています。

- 普段、1日当たり、テレビゲーム等を3時間以上している子が多い
- 家で、自分で計画を立てて、勉強している子が少ない
- 土曜や日曜の勉強時間が、1日当たり、1時間以下の子が多い

子ども達は、スマホやパソコン等の使い方について、家の人との約束は守れているようですので、テレビゲーム等の時間を決めていただければ幸いです。

また、学校が休みの日にも、自分で計画を立てて、学習してほしいものです。

最後に、社会生活においては、次の項目が小中学校ともに課題となっています。

- 新聞をあまり読んでいない
- 住んでいる地域の行事に、あまり参加していない
- 地域や社会をよくするために何をすべきか、あまり考えていない

コロナ禍で、そもそも地域行事が減ってはいますが、子ども達は、地域や社会への関心が低いようです。地域社会での活動機会を積極的に活用していただければと思います。

今後とも学校教育へのご協力をよろしく願います。

